

第5章 各年次の「達成度評価ポートフォリオ」

5. 1 「達成度評価ポートフォリオ」構築に至る背景とその目的

本学では平成16年度に「修学ポートフォリオ」「キャリアポートフォリオ」「自己評価ポートフォリオ」が運用されたように、ポートフォリオが独立して存在していた。そこで一つにまとめて、関連性を持たせようとする企画が、運用している教員ではなく事務職員から提出された。具体的には、現在稼働している複数のポートフォリオを統合して新たな展開を模索するもので、ポートフォリオを材料として学生が自分自身でPDCAサイクルを回す手段、ツールとしてのポートフォリオシステムを構築し、結果として学生の学習意欲を向上させるものであった。

その際、平成15年頃のポートフォリオ導入に関する検討会において、米国の大学で運用されているものを参考にして作成された原案を想定した。それは以下のようなものであった。

①各科目に学生の達成目標が定められ、それを確認するためのレポート（ゴールペーパー）を作成し、ポートフォリオに登録する。例えば「自立と自律」という達成度目標に対して、「修学基礎」や「人間と自然」など複数の科目が設定される。

②各科目のゴールペーパーを集積する「ポートフォリオ評価科目」を設定し、そこでゴールの達成度を評価する。具体的には個々のゴールペーパーをエビデンスとして人間性の問題を追求するとか、様々なテーマについて最終ゴールペーパーを作成する。

③達成度目標ごとの最終ゴールペーパーと配当科目を以下の8項目とする。

I. 自立・自律（自己管理）、生涯学習、勤勉、主体性：「修学基礎」など

II. リーダーシップ（統率力、指導力）、目標の共有、チャレンジ精神、率先垂範、活力：「人間と自然」など

III. コミュニケーション能力（意思・感情・思考の伝達）、国際的コミュニケーション能力

IV. プrezentation能力（提示、発表）、傾聴力、論理性

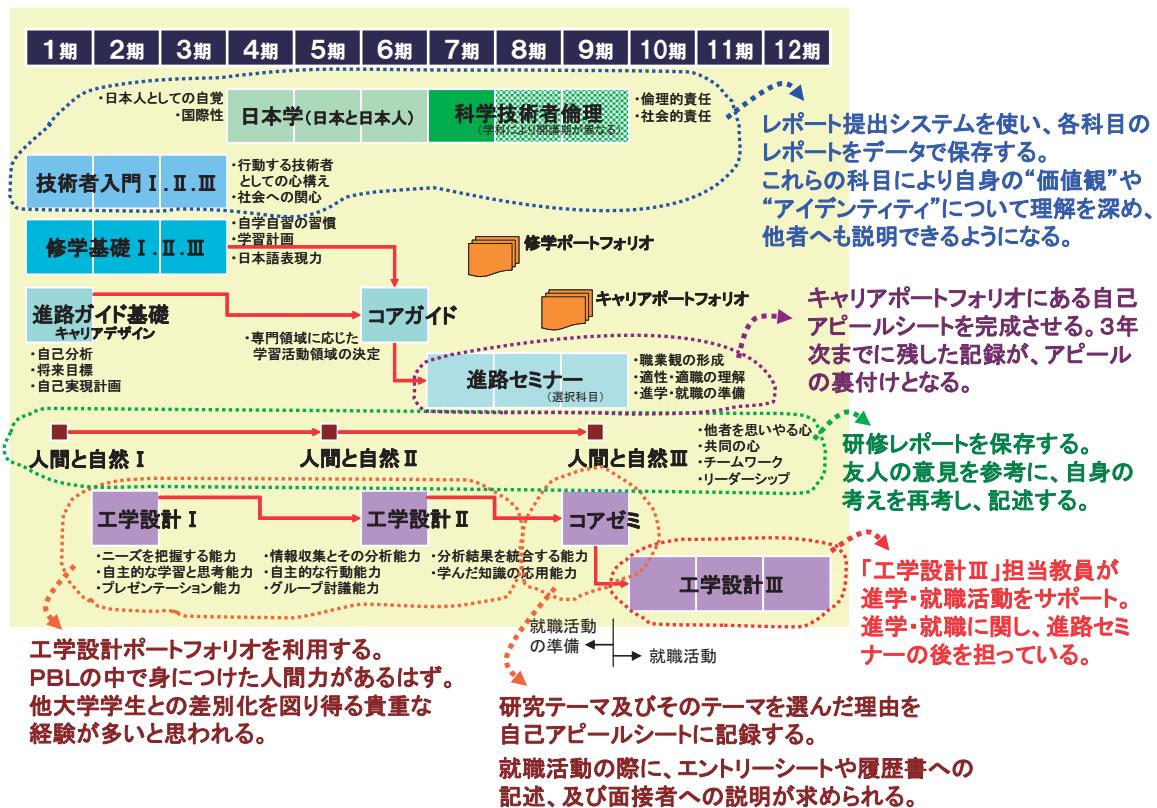
V. コラボレーション能力（共同・協調）、チームワーク、誠実、共同と共創

VI. 問題発見・解決能力、創造性、専門性、設計能力、知的好奇心：「工学設計」など

VII. 社会に対する責任、倫理、多様性の理解、アイデンティティ、思いやりの心：「技術者入門、日本学、科学技術者倫理」など

VIII. キャリアデザイン能力、自己ピーアール、適性の把握、自己実現：「進路ガイド基礎、コアガイド、進路セミナー」など

当時この原案について、本学での一斉運用はポートフォリオに対する教員の理解不足、システムの複雑さ、運用の煩雑さなど様々な反対意見が続出し、できる部分から行うべきとの意見が支配的であった。その結果【図5-1】に示した最終案が確立し、先に報告した平成16年度から「修学ポートフォリオ」「キャリアポートフォリオ」「自己評価ポートフォリオ」の運用を逐次開始した。



【図 5－1】ポートフォリオ最終案

これらのポートフォリオ全体を「KIT ポートフォリオシステム」と名付け、各ポートフォリオに登録した内容をエビデンスとして1年ごとの整理を行うものとして「達成度自己評価ポートフォリオレポート」が考案され、平成18年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）に「学ぶ意欲を引き出すための教育実践—KIT ポートフォリオシステムを活用した目標づくりー」を申請し選定された。

その目的は、「KIT ポートフォリオシステム」の活用、授業連携、修学アドバイザーの指導を通して、学生への継続的な学習意欲の触発と修学支援から、学生の段階的な目標づくりと修学満足度の向上を目的とする「達成度評価ポートフォリオ」を構築することにある。また恒常に、学生の学習意欲を引き出すために、学生の実例を基にした多様な修学モデルを提示することによって、更なる学ぶ意欲の触発を促し、本学の教育目的である「自ら考え行動する技術者」の育成機能強化を図ることを目指すものである。

言い換れば、学生は次年度（新入生は当該年度）の目標を設定し（Plan）、目標を達成するための活動プロセスや成果を記録し（Do）、それをもとに目標への達成度を評価し（Check）、次年度に向けた改善を図り、活動計画を作成して実行する（Action）、というPDCAサイクルを回すことになる。自己成長の軌跡と修学の自覚・自信・反省から、技術者になる意義と意欲を高めることを目的とするものである。

具体的には、以下の4項目を事業内容としている。

- ①「達成度評価ポートフォリオ」における成果物サマリーの内容と項目が設定でき、学生

の自己実現目標の明確化を図る。

- ②プロジェクト型科目「工学設計」を通して「達成度評価ポートフォリオ」の作成を実施することにより、学生自らの能力の総合化実践、実社会で必要な能力の自己評価が可能となり、学生個々人が自らの能力開発の目標を段階的に持つことができ、その支援を行う教員は適切かつ有効な教育と修学指導を実施する。
- ③「達成度評価ポートフォリオ」を導入することにより、修学アドバイザーのみならず、科目担当者による修学指導を展開することで、学生の自己実現目標としてのキャリアデザインの取組が効果的なものとして、実質的に学生の未来に対する自信や意欲を向上させることを目指す。「達成度評価ポートフォリオ」と修学満足度のアンケート調査により、学生の行動目標に対する達成度評価と実際の成績評価とを比較・検証することで、プロジェクト型科目の効果的な授業方法に反映して、学生の学習意欲の向上につなげることができる。また、「達成度評価ポートフォリオ」のFD活動を通して、授業内容の評価・改善、授業連携、更に「修学ポートフォリオ」と「キャリアポートフォリオ」を活用した授業と修学支援を結びつけるオフィスアワーの充実を図る。

- ④第三者からの助言・提言を受け、本取組の発展を目指す。

5. 2 「達成度評価ポートフォリオ」の運用とその成果

「達成度評価ポートフォリオ」（【図5-2】）の運用開始は平成18年度からで、まず試行として1年生を対象に「修学基礎III」において開始した。翌平成19年度から、2年生は「コアガイド」、3年生は「コアゼミ」を実施科目として位置付け、年度末に全学的展開が可能となつた。

【図5-2】「達成度評価ポートフォリオ」

具体的な登録内容は以下のとおりである。

- ① 今年度の目標と達成度自己評価を入力しなさい。
 - 1) 今年度の目標（50 文字程度）
 - 2) 達成度の自己評価（200 文字程度）
- ② 今年度の修学・生活状況（出欠、成績、課題提出・各種教育センター利用、課外活動、健康、アルバイトなど）において満足すべきことや反省すべきこと、およびこれらを一層発展させる方法や改善方法を入力しなさい。
 - 1) 修学・生活状況（100 文字程度）
 - 2) 発展・改善方法：（200 文字程度）
- ③ 希望進路とその実現に向けて実際にとった行動・成果（自学自習、資格挑戦・取得、インターンシップなど）および展望を入力しなさい。
 - 1) 希望進路（100 文字程度）
 - 2) 行動・成果・展望（200 文字程度）
- ④ 「KIT 人間力＝社会に適合できる能力」に示された 5 つの能力について、具体的な達成度自己評価を各 100 文字程度で入力しなさい。
 - 1) 「自律と自立」
 - 2) 「リーダーシップ」
 - 3) 「コミュニケーション能力」
 - 4) 「プレゼンテーション能力」
 - 5) 「コラボレーション能力」
- ⑤ 次年度の目標とこれを達成するための行動予定を入力しなさい。
 - 1) 次年度の目標（50 文字程度）
 - 2) 次年度の目標を達成するための行動予定（200 文字程度）

①～④までの項目は各学年共通だが、⑤については学年によって異なる。、

【2年生】

4 年次生で志望する研究室名または専門領域科目群（専門コア）とその志望理由を入力しなさい。また次年度の目標とこれを達成するための行動予定を入力しなさい。

- 1) 志望する研究室・専門領域群の名称
- 2) 研究室・専門領域群の志望理由（200 文字程度）
- 3) 次年度の目標（50 文字程度）
- 4) 次年度の目標を達成するための行動予定（200 文字程度）

【3年生】

工学設計Ⅲのテーマと将来の具体的な職業観を入力しなさい。大学院進学希望の場合は、職業観の代わりにその進学の抱負を入力しなさい。また次年度の目標とこれを達成するための行動予定を入力しなさい。

- 1) 工学設計Ⅲのテーマ
- 2) 具体的な職業観あるいは大学院進学の抱負（200文字程度）
- 3) 次年度の目標（50文字程度）
- 4) 次年度の目標を達成するための行動予定（200文字程度）

すなわち各種ポートフォリオに登録した情報をもとに作成する「達成度評価ポートフォリオ」は、各年時の年度末報告書というべきものであり、これを新学年の4月に全学年で実施する個人面談時に、修学アドバイザーはこれを参照して、新学年での1年間の計画と方向性について学生と相互検証することになる。

実例として旧バージョンであるが、環境・建築学部建築学科Hさんの「1年次の回顧と展望（現、1年次の達成度評価ポートフォリオ）」（【図5-3】）を挙げておく。

1年次の回顧と2年次への展望
参照

環境・建築学部 建築学科 Hさん

**1)【「修学基礎ⅠⅡⅢ」の「学生の行動目標」の達成度について】
(達成できなかった原因と改善方法)**

1週間の行動履歴については、1週間の行動履歴を作成することにより、1週間の計画をたてることができたが、その計画通りの行動ができなかった。2年次では、もう少し予定をつめすぎないで、ゆとりを持って計画をたて、実行していくたい。文章作成については、だいぶ自分の見解を文章で作成ができるようになったが、まだ、うまく日本語を使うことができないので、本や新聞などを読み、文章にもっと触れることにより、文章作成能力を身につけていくたい。グループ討議については、あまり積極的に意見を言うことができず、班員とうまくコミュニケーションをとることができなかつた。2年次では、できるだけ積極的に自分から意見を言うように心がけたい。提出物については、すべての課題を提出日に提出することができた。2年次でも、提出物の締め切りを守れるように努力したい。（文字数：365文字）

**2)【1年間の学習・生活全般についての反省と改善方法】
(成績・課題提出・出席など)**

成績については、春学期よりも秋学期の方が成績が上がっていた。春学期は、まだ大学生活に慣れていなかったので、学習時間があまりとれず、成績があまりよくなかった。だが、秋学期は、大学生活にだいぶ慣れてきたので、スケジュール管理ができるようになり、学習時間がとれるようになったので、成績が上がった。これから、専門科目が増えてきて忙しくなるが、頑張ろうと思う。課題提出については、全ての課題を提出日に出すことができた。これからも、課題の締め切りを守れるように努力したい。出席については、毎日出席することができたが、秋学期は遅刻をすることが多くなった。春学期は毎日早起きしていたが、秋学期は課題が忙しく、睡眠時間があまり取れなかったので、早起きができなくなってしまったからだ。これからは、課題を余裕を持って行い、睡眠時間を確保して、早起きを心がけたい。（文字数：370文字）

3)自己診断シート(入学時に作成)の「卒業後の希望進路に到達するためには、どのような主体的行動を取るべきと考えますか」について以下の内ひとつを選んで記して下さい。

この1年間どのような主体的行動を取りましたか、次年度以降の計画をどのように考えていますか。
 主体的行動ができなかった原因・理由は何ですか、その改善方法をどのように考えていますか。

この1年間、私は夢考房の建築デザインプロジェクトに所属し、活動した。夢考房では模型を制作することにより、模型制作に必要な知識や技術をだいぶ身につけることができた。また現在、夢考房の先輩からの紹介で、大学院生の修士設計を手伝っている。模型制作の手伝いだが、研究室に所属している先輩方との交流ができるので、積極的に参加している。来年度以降は、夏休みなどの長期休暇を使って行われる職場体験に参加したい。職場体験は、実際の仕事現場を体験することで、建物の設計から建設までの工程を理解することができる。私は様々な経験をしておきたいので、ぜひ参加したい。また、大学在学中に世界中の有名な建築物を見に行きたい。有名な建築物を見ることにより、多くの刺激を受け、新たな発想を生み出しができる。社会に出て働き始めると、自分の時間がなくなるので、時間のある大学生のうちに、世界中の有名な建築物を見に行きたい。（文字数：395文字）

戻る
印刷する

②今年、自分が行った主体的行動について振り返り、今後、自分に必要な行動について検討することができた。

【図5-3】環境・建築学部建築学科Hさんの「1年次の回顧と展望（現、1年次の達成度評価ポートフォリオ）」

次に 19 年度から開始した新バージョンの実例として、環境・建築学部建築学科の F さんと情報フロンティア学部の心理情報学科 J さんの「3 年次の達成度評価ポートフォリオ」を挙げておこう。

2007 年度 コアガイド 環境・建築学部 建築学科 F さん

① 今年度の目標と達成度自己評価を入力しなさい。

1) 今年度の目標（50 文字程度）

回答：1 つ目に、授業を皆勤すること。2 つ目に将来の方向性についておおまかに決めるこ
と。

2) 達成度の自己評価（200 文字程度）

回答：授業の皆勤は達成できた。生活のリズムはどうしても崩れてしまうが、健康面に非常
に気を遣った。その結果、欠席だけでなく遅刻もせず授業を受けることが出来た。将
来の方向性について、専門授業が増える 2 年次であり、自分がどの分野に向いてるか
より自分は何をしたいのかじっくり考えることができた。その決めた方向について、
3 年次ではいろいろ挑戦したいと思う。

② 今年度の修学・生活状況（出欠、成績、課題提出・各種教育センター利用、課外活動、健康、
アルバイトなど）において満足すべきことや反省すべきこと、およびこれらを一層発展させ
る方法や改善方法を入力しなさい。

1) 修学・生活状況（100 文字程度）

回答：1 年次で多少体調を崩すことがあったので、今年は健康面に気を遣った。病気や怪我
もなく、それが今年の授業の皆勤につながったと思う。課題は提出前までやっている
ことが多かった。

2) 発展・改善方法：（200 文字程度）

回答：まず何より計画を立てることが重要だと思う。長期の予定を学期の始めに立てる。そ
して毎日何をすべきか細かな計画を 1 日ごとに立てたいと思う。また課題提出も計画
を立てることによって余裕をもって終わらすことが出来る。3 年次ではより忙しくなる
と聞くので、生活のリズムは崩れても体調により気をつけて皆勤を続けたい。常に
時間を有効的に使い、悔いないようにしたい。

③ 希望進路とその実現に向けて実際にとった行動・成果（自学自習、資格挑戦・取得、インター
ンシップなど）および展望を入力しなさい。

1) 希望進路（100 文字程度）

回答：建築の意匠設計の分野の進路を考えている。具体的には設計事務所やゼネコンの設計
部に就職したいと考えている。

2) 行動・成果・展望（200 文字程度）

回答：課外活動に積極的に参加し、知り合いを増やすことで様々な影響を受けた。実際に建
築事務所をもつ建築士に話を聞き、将来のことについてより深く知ることが出来た。
他大学の学生からは、建築学科以外にも分野が異なる人と話すことができて様々

な影響を受けた。これからも課外活動に参加し、多くの人と話ができたと思う。自習も分野が偏ってしまうので計画的に行い、将来に有意義なものにしたい。

④「KIT 人間力＝社会に適合できる能力」に示された 5 つの能力について、具体的な達成度自己評価を各 100 文字程度で入力しなさい。

1) 「自律と自立」(100 文字程度)

回答：課外活動でグループ活動が多くなるが、役割分担などで「個人の責任感も大きくなるので 1 年次と比較すると成長できたと思う。また個人でも積極的に課外活動に參加した。

2) 「リーダーシップ」(100 文字程度)

回答：課外活動では先輩との活動が多かったので、自分からはなかなかリーダーシップを取ることができなかつた。これからは先輩たちとのグループでも積極的にリーダーシップをとれたらと考える。

3) 「コミュニケーション能力」(100 文字程度)

回答：多くの人と出会う 1 年であった。初めての人と会うのは緊張していたが、この 1 年で自分からも話すことができるようになった。また自己紹介も適切に行えるようになったと思う。

4) 「プレゼンテーション能力」(100 文字程度)

回答：課外活動で自分の考えを多くの人に発表する機会があつた。1 年次でそのような経験ができなかつたので、プレゼンテーション能力は非常に向上したのではないかと思う。

5) 「コラボレーション能力」(100 文字程度)

回答：いくつかのグループが集まり、設計を行っていく作業も課外活動で体験した。自分の意見を主張しつつ、他人の意見を聞くことが出来た。話をまとめる過程ではそのバランスの難しさを体験した。

⑤次年度の目標について

4 年次生で志望する研究室名または専門領域科目群（専門コア）とその志望理由を入力しなさい。また次年度の目標とこれを達成するための行動予定を入力しなさい。

1) 志望する研究室・専門領域群の名称

回答：建築意匠設計を志望している。志望する研究室は水野研究室、蜂谷研究室、森研究室のいずれかである。

2) 研究室・専門領域群の志望理由 (200 文字程度)

回答：水野研究室の先輩と活動する機会が多く、そこで研究室の話をよく聞いていた。自分にとっては魅力の多い内容であった。他の研究室についてはよく理解してない部分があるので、これから知識を深めたいと思う。

3) 次年度の目標 (50 文字程度)

回答：まず授業を皆勤することである。そして、今年で志望する進路がある程度決まったので、その分野についていろいろ挑戦したい。

4) 次年度の目標を達成するための行動予定 (200 文字程度)

回答：健康面に気をつけることが第一である。そして、2年次から課外活動を多く行っているので3年次でも同じように行いたいと思う。多くの人と出会うことによって様々な影響を受け、自分の進路に対して刺激になればと思う。その影響を自分の中で昇華し、オリジナルなものをつくることを日々考える余裕をもつ生活を送りたい。また、難しい進路であるのでネガティブになりがちだがポジティブに物事を考えていきたいと思う。

2007年度 コアゼミ 情報フロンティア学部 心理情報学科 Jさん

①今年度の目標と達成度自己評価を入力しなさい。

1) 今年度の目標 (50文字程度)

回答：将来についてより具体的な計画を立てるとともに、今なにができるかを考えて行動することである。

2) 達成度の自己評価 (200文字程度)

回答：将来については、具体的な計画を立てることがほぼできたと思う。大学卒業後は、進学をすることを決断した。また、4年時の研究テーマにおいても、少しずつ具体的になってきた。何ができるかを考えて行動することに関しては、実行できたときもあったが、全く実行できないこともあった。全く実行できないときは、時間に余裕があつたときが多くかった。次年度は、時間に余裕があるときこそ、何ができるかを考えて行動し、時間を有意義に過ごす必要がある。

②今年度の修学・生活状況（出欠、成績、課題提出・各種教育センター利用、課外活動、健康、アルバイトなど）において満足すべきことや反省すべきこと、およびこれらを一層発展させる方法や改善方法を入力しなさい。

1) 修学・生活状況 (100文字程度)

回答：どの授業においても欠席をすることなく授業を受けた。成績においても、全ての単位を取得することができ、成績も悪くなかったため、満足している。課外活動においては、練習にもしっかりと参加して、試合にも行った。(100文字)

2) 発展・改善方法 : (200文字程度)

回答：修学・生活状況において改善すべき点は、ないと思われる。発展すべき点は、健康管理についてである。健康管理について反省すべき点は、睡眠不足や体調不良で授業に集中できないことがしばしばあった点である。今後は健康に気を遣い、そのようなことがないようにしたい。課外活動については、来年度の前半で引退である。その残りわずかな期間から、少しでも多くのことが学べるようにしたい。課題提出においては、引き続き期限に確実に間に合うように提出したい。(214文字)

③希望進路とその実現に向けて実際にとった行動・成果（自学自習、資格挑戦・取得、インターンシップなど）および展望を入力しなさい。

1) 希望進路 (100文字程度)

回答：大学院への進学である。大学院へ進学し、臨床心理の専門家になる勉強をしたい。臨

床心理士の基本的なことを勉強することはもちろんだが、臨床心理の中でも、子どもに関する分野の勉強をしたいと考えている。（96 文字）

2) 行動・成果・展望（200 文字程度）

回答：行動は、英語の勉強をしたことである。大学院での授業では、英語が非常に重要になってくると思われる。進学後の苦労を少しでも減らしたいと思い、英語の勉強を始めた。展望としては、英語の文章に苦手意識を持たずに読めるようになりたい。そのためにも、英語の学習はこのまま持続したい。さらに、大学院の入試問題に取り組んだり、大学院の特色を調べたりするなどの、進路に関してのより現実的な行動をしたいと思う。（194 文字）

④ 「KIT 人間力＝社会に適合できる能力」に示された 5 つの能力について、具体的な達成度自己評価を各 100 文字程度で入力しなさい。

1) 「自律と自立」（100 文字程度）

回答：自立、自律とも不十分であったと思う。自立に関しては、昨年度よりは減ったが、人に頼る面がまだ多いと感じる。自律に関しては、自分に甘い面が非常に多く、さらに自分を律しなければならないと思う。（93 文字）

2) 「リーダーシップ」（100 文字程度）

回答：リーダーシップは必要な場面において、しっかりと取れたと思う。特に部活では、仕事を円滑に進めるために、後輩に指示を出したり、仕事の役割分担をしたりして、リーダーシップを発揮できた。（89 文字）

3) 「コミュニケーション能力」（100 文字程度）

回答：自分が伝えたいことの表現が十分にできなかつたり、感情的になってしまったりすることがあった。しかし、コミュニケーションが全く取れなかつたわけではなく、しっかりと取れたこと也有つたので、ムラがないようにしたい。（103 文字）

4) 「プレゼンテーション能力」（100 文字程度）

回答：今年度は、様々な場面で発表することがあったが、どの場面でも相手に意図が伝わるようなプレゼンができたと思う。視線に関しては、スライドやメモを見続けてしまうことがあった。そのようなことがないように、前を向いて話すようにしたい。（111 文字）

5) 「コラボレーション能力」（100 文字程度）

回答：発表の準備や仕事の分担など、協力して物事を進めなければならないことに関してはコラボレーション能力を活かすことができたと思われる。周りに気を遣いすぎ、自分の意見を言えなかつたことがあるので、その点を直せばさらに良いと思う。（111 文字）

⑤ 次年度の目標について

工学設計Ⅲのテーマと将来の具体的な職業観を入力しなさい。大学院進学希望の場合は、職業観の代わりにその進学の抱負を入力しなさい。また次年度の目標とこれを達成するための行動予定を入力しなさい。

1) 工学設計Ⅲのテーマ

回答：達成動機について

2) 具体的な職業観あるいは大学院進学の抱負（200 文字程度）

回答：大学院へ進学し、臨床心理の専門家になる勉強をしたい。臨床心理士のあるべき姿や構えなどの基本的なことを勉強することはもちろんだが、臨床心理の中でも、子どもに関する分野の勉強をしたいと考えている。大学院への進学のために、大学院の入試問題に取り組んだり、大学院の特色を調べたりするなどのより現実的な行動をしたいと思う。また、英語の勉強も続けて行いたいと思う。（178 文字）

3) 次年度の目標（50 文字程度）

回答：大学院への進学に向けて勉強をする。また、工学設計Ⅲの研究も計画的に進めていきたい。（41 文字）

4) 次年度の目標を達成するための行動予定（200 文字程度）

回答：大学院への進学のための勉強としては、大学院の入試問題に取り組んだり、心理学の復習をしたりして、長期的な計画を立てて行いたい。工学設計Ⅲに関しては、春学期のうちから、時間を有効に使い、最後にあせることがないようにしたい。具体的には、計画を週の始めに立て、それに従って行動したい。2つに共通して言えることは、時間を有効に使い、無駄がない過ごし方を心がけることである。早め、早めの行動を心がけたい。（196 文字）

次に学生の評価であるが、これも「修学ポートフォリオ」と同様に、まず平成 19 年 11 月に開催した「修学ポートフォリオ」に関する座談会「夢の実現を支援する KIT ポートフォリオシステム」での学生の評価を挙げておこう。

【修学ポートフォリオを利用して良かった点】

- ①自分の行動を振り返り、次の学年での目標を明確にする手助けになったように思う。また、高校まではあまり文章を書くことがなかったが、文章を多く書く練習にもなったと思う。
- ②達成度ポートフォリオを利用してよかった点は、1年の総括を行い、来年度からの修学に役立てることができたことである。私は資格取得を目指していたが、1年次には受験をしなかった。その反省をもとに、2年次では、基本情報技術者資格の取得を目指し取得することができた。これは、達成度ポートフォリオからの反省により、目標を設定できたということだろう。
- ③他のレポート課題と同じように、文章を考える訓練にはなった。実際、各学期の回顧と展望を比べてみると、学期が進むごとに文字数が増えている。加えて、反省と改善の提示の訓練でもあった。達成度ポートフォリオは提出課題であるため、強制的に反省と改善の提示を捻り出さなければいけない。つまり、考えずには先に進めないのである。これが1年間続くことによって習慣になる。これは周りの友人の会話からも伺える。例えば学期終了時に感想を求めるとき、なぜか反省とその改善点が示される。これは私にも当てはまるところで、ポートフォリオの威力を実感する体験であった。

④毎年の進路について自分が行った行動やその時の進路に関する考え方を振り返ることができるのでよかったです。また、考えるだけでは忘れてしまうことが多いが、それを記入して保存することができるため、過去と現在の進路に関する考え方を比較することができるので、さらに考えが深まってよいと思う。

このように、文章作成能力の向上、1年間の総括による次年度の計画、仲間同士の会話で反省が自然に出てくる、記録することで過去と現在の進路に関する考え方の比較ができるなど、思いの外評価が高いコメントがあり、学生が「ポートフォリオの威力を実感する体験であった」と述べたことはその極致である。

次に平成19年度「修学基礎Ⅲ」の授業アンケートにおいて修学アドバイザーとの関係を調査したので、その結果を挙げておく。回答数は946名である。

設問：担当教員（修学アドバイザー）とのコミュニケーションを持ちましたか。

十分に持てた 23.6%、やや持てた 64.1%、あまり持てなかつた 8.6%、
全く持てなかつた 2.5% 必要なかつた 1.1%、その他 1.1%

設問：あなたにとって個人面談は有益でしたか。

大変有益 34.4%、やや有益 52.0%、あまり有益でない 8.0%、
無益 2.0%、その他 3.6%

このように、学生と修学アドバイザーとの関係は良好で個人面談も有益と判断している学生が多い。学生の相談に親身になって対応する教員の姿勢が評価されているものと思われる。

また修学アドバイザーとの接触と自学自習の姿勢についての関連性という興味深い調査報告がある。コミュニケーションを「充分とれた」と「ややとれた」を肯定的反応、「あまりとれなかつた」と「まったくとれなかつた」を否定的反応として、それぞれを合計し、自学自習の姿勢が身に付いたかどうかに対する反応の割合を出したものである。それによると、自学自習の態度が「充分身についた」「やや身についた」と回答した学生は、担当教員とのコミュニケーションがとれている場合が比較的多い。これとは逆に、自学自習の態度が「あまり身についていない」「全く身についていない」と回答した学生は、担当教員とのコミュニケーションが不充分であった傾向が比較的高くなっている。すなわち、学生にとって、担当教員とのコミュニケーションが良好であることが、自学自習の態度を身に付ける上でプラスの影響を及ぼしている傾向があると考えられる。

ただし、これらは1年生を対象とした授業アンケートをデータとしており、2年生以上の学生に関するものではない。

なお当然ながら、学生からの不満の声もあるので、紹介しておきたい。

①1年の最初にはそれが勉強になったが、後半には自分で振り返ることに慣れてきたので、

打ち込んで文章にすることは面倒だった。

- ②入力の説明を「修学基礎」の時間に行って欲しい。または詳しい説明(活用方法や利点など)のプリントが欲しい。
- ③字数制限をなくして欲しい。制限を満たすためだけに中身のない文を書くなら、シンプルに自分が分かる文を書けばそれで反省できると思う。

この中には入力マニュアルをテキストに掲載し、さらに授業で丁寧に説明することで解決した点もあるが、入力の文字数など課題として残されていることもある。

5. 3 展望と課題

平成 19 年度から全学的に展開した「達成度評価ポートフォリオ」は、学年ごとの自己達成度を評価し次年度につなげ PDCA サイクルを回すものであり、そこに教員が介在し学生との相互評価を行う。これによる修学指導を展開することで、学生の自己実現目標としてのキャリアデザインの取組が効果的なものとして、実質的に学生の未来に対する自信や意欲を向上させることにつながることを期待している。

課題として、「達成度評価ポートフォリオ」そのものに対する教員の理解が、依然として不足していることが挙げられる。個人面談に有効な資料として重宝する教員も多いが、その反面、学生から「新年度の個人面談で『達成度評価ポートフォリオ』」が活用されなかつたことをしばしば聞かされる。教員の本音を調査したことはないが、もっとも大きな理由はポートフォリオを読む煩雑さであろう。

いま大学に求められていることに様々な「説明責任」がある。これには学習成果、つまり教育の質の保証もあるが、学生の修学生活およびキャリア形成指導にかかわることも重要な責務である。そしてこのことは、保護者に対する説明責任でもある。本学の場合、1～3 年生は修学アドバイザー、4 年生は研究室指導教員が直接的に学生の修学生活指導を行うことになっているが、その使命を今一度確認し、実行する必要がある。